

1300年も続いている高森のお薬師さま！

■ とても繁栄していた高森薬師！

阿賀野川の右岸堤防近くにある「高森の丘」、その頂上には、高森薬師堂があります。その発祥については、「昔、日本と唐（中国）の交流が盛んな時代、持統天皇の乙未（695）の年に、唐の僧良元が日本に渡来の途中に大暴風雨に遭い、この地に漂着した。良元は自分が助かったのは、日頃、信じ尊ぶ薬師如来のご加護であるとして、この地に金銅仏薬師如来を安置した」など、さまざまな言い伝えがあります。

さらに、奈良時代～平安時代初期に大いに繁栄し、大小36の寺坊と3,000人の僧が生活していたといわれています。しかし、数度の大地震や大津波で壊滅状態になり、鎌倉時代になって再

び繁栄したと伝えられています。

その後、室町時代末期になって阿賀野川の河道に一大変化が起き、水害の被害が大きく、村人は食べるものもなくなって、この地から離れてしまいました。文禄年間（1592～96）には、高森は10数戸の村となり、もともと高森にあった東陽寺（大淵）、真光寺（松山）、長安寺（長戸呂）などの寺院も次々とこの地を去ってしまったといわれます。

1598（慶長3）年、溝口秀勝が新発田に入封すると、以来、治水墾田に努め、高森も再び繁栄しました。そして、薬師堂は1678（延宝6）年に造立され、その後、数度の再興が繰り返されて、今日に至っています。



高森薬師堂

■ 中世の遺物が繁栄の証拠!?

このような伝承を直接裏付けるものは残されていません。薬師庵の石仏や一本杉地蔵尊と呼ばれている石仏が、中世の信仰を物語っています。また、高森の丘から1kmほど北の、旧阿賀野川河跡の自然堤防上にある下前川原遺跡は、発掘調査の結果、12世紀後半～13世紀を中心とした渡し場的な遺跡だったと推定されています。さらに、森下では、15世紀中頃～後半に埋められた古瀬戸瓶子が発見され、その中には中国銭がぎっしり詰められていました。

これらは、中世において高森周辺で人々の積極的な活動があったことを教えてくれます。高森薬師が繁栄していたためと想像されます。



一本杉地蔵尊の石仏 (中世阿弥陀仏)



下前川原遺跡発掘調査

■ お薬師さまの今

現在の高森薬師堂は、火災で焼失したあと、1974 (昭和49) 年に再建された鉄筋コンクリート造りです。毎年の春秋の大祭 (5月と10月の7～8日) には、大勢の参拝人で賑わいます。祭りには「高森いざや神楽」が奉納されます。この神楽は、1705 (宝永2) 年に薬師如来再興の入仏供養において奉納されたのが始まりです。2005 (平成17) 年に伝承300周年記念事業が盛大に行われました。

「お薬師さま」のあるこの丘は、近郷の人々の信仰の地であり、憩いの森でもあります。推定樹齢1,200年といわれる高森の大ケヤキも人々の営みをじっと見守っています。



森下遺跡から出土した古瀬戸瓶子と中国銭



「伝統の舞」 早川恭弘 高森いざや神楽 (北区フォト&イラストコンテスト入賞作品)